

第11回「環境やまがた大賞」 受賞者のご紹介

山形県では、地球環境又は地域環境の保全と創造に関する普及啓発、実践活動を行い、大きな成果が認められる個人、団体（グループ、NPO、学校等）を顕彰しています。

11回目となる今回は、「米沢生物愛好会」、「山形県立東根工業高等学校ものづくり委員会」、「工藤 時雄 さん」の2団体1個人を受賞者として決定しました。

表彰式は、平成22年6月4日に開催された
「山形県地球温暖化防止県民運動推進大会」の中で行われ、
高橋 節^{たかし} 副知事から各受賞者に賞状が
手渡されました。

※ 受賞者の活動内容は次のとおりです。



表彰式の様子





米沢生物愛好会 (米沢市)

自然保護意識の啓発と
取組みの推進

米沢生物愛好会は、昭和30年に発会し、置賜地方を中心とした自然観察活動を行い、その成果を展示会などで広く市民に提供してきました。昭和59年以降は「地域への貢献」を目標に掲げて活動し、「米沢市うこぎ垣」の調査・保全活動は地域振興のきっかけともなりました。その活発な活動は地域の自然保護意識の啓発と取組みの推進に長く貢献しています。



網木峠の調査



うこぎ垣の調査



「置賜の庭」管理活動



山形県立東根工業高等学校 ものづくり委員会（東根市）

手作り太陽光パネルの 製作・普及活動

ものづくり委員会は、「ものづくり」の技術を活かした社会貢献、国際協力を目指して平成19年に創設されました。手作りの太陽光発電パネルを製作し学校の電気として使用することにはじまり、生徒自らモンゴルやバングラデシュへ渡航し技術提供しています。また、地域の小学校などで実演講座を開催したりするなど新エネルギーの普及に大きく貢献しています。



高校生による実演講座



学校に設置した手作り
太陽光発電パネル



モンゴルを訪問し現地高校生に技術提供



工藤 時雄 さん

(庄内町)

ホタル幼虫放流会による環境学習支援

工藤時雄さんは、「立川ホタル研究会」会長として昭和62年から源氏ボタルの飼育研究を始め、平成6年からこれまで県内各地のホタル保全団体にホタルの幼虫を提供し放流会を実施するとともに、東京の団体ともホタルを通じて交流しています。たくさんのお子どもたちに環境保全や自然に親しむことの大切さを訴え、長年にわたり環境学習を支援しています。



ホタルの幼虫の放流会

